

市場介入秘話

日本 「円高が史上最高値を更新しそうです。3月のときと同様の御協力をお願いします。」

米国 「あの時は大震災直後だったから」

欧州 「とにかく日本を救えとの気運が強かった」

日本 「このままでは景気に重大な影響が出ます。震災からの復興が腰折れしそうです」

欧州 「復興は予想よりも急ピッチで進んでいると聞いている。サプライチェーンの問題も解消に向かっている。さすが日本だと、昨日もEU財務省会議で話題になった。こちらは国家債務の問題がスペインやイタリアにまで波及して、サマーバケーションも取る暇もない」

日本 「その問題は今日の議題ではありません。とにかく円高がこれ以上進めば日本経済は持ちません。世論も円高阻止の声が強まっています」

米国 「為替レートは市場に任せるのが原則だ。介入はたまには実行してもいいが、短期間に何度もやるものではない。市場がゆがんでしまう」

欧州 「失敗すれば我々は市場から信頼を失ってしまう。それが怖い。債券市場の介入では苦い経験をした。当局が信頼を損なえば、その後の政策の効果が半減し、かえって大きなつけを払うことになる」

日本 「皆さん協調介入に反対のようですが、日本を見殺しにするのですか」

欧州 「まあ、感情的にならないで。今回の円高に同情しますが、何も円だけが高くなっているわけではない。スイスフランはこの1年間で円よりもドルに対して強くなっている。もちろんユーロに対してもね。オーストラリアドルやブラジルリアルも同じだ。たくさん通貨がドルに対して史上最高値を更新している」

米国 「また協調介入をすれば、通貨戦争だと世間は騒ぐ。新興国も黙ってない。我々先進国を非難するだろう」

欧州 「あの連中ときたら、IMFの欧州支援策も先進国寄りだと新任の専務理事に圧力をかけるくらいだから」

米国 「中国に人民元高のスピードを緩めるような口実を与えたくない」

欧州 「米国も債務削減を進めなくてはならないから、財政からの景気刺激策は打てない。金融政策に比重がかかる。市場ではQE3の可能性も取り立たされている。これでは介入しても効果は限られる」

米国 「雇用も伸ばさなければ、大統領の再選は厳しい。輸出促進の旗は降ろせない。議会も厳しくなる。経常収支の黒字を維持している国の通貨を介入で下げる理屈は通りにくい」

日本 「皆さん協調介入は難しそうなので、わが国が単独介入をする場合は批判をせずに容認してください」

欧州 「介入をするときはG7が一致して行う方がいい」

米国 「介入は望ましくない。単独介入をするのは勝手だがね」

日本 「皆さんにご迷惑はかけません。(単独介入くらいは容認してくれると思ったのに、見通し甘かったか、、、)

このストーリーはフィクションです。